

マルチメディアメッセージング特集によせて



研究開発本部長
マルチメディアメッセージングカンパニー チェアマン
ブロードバンドメディアカンパニー チェアマン

杉本 晴重

Harushige Sugimoto

メッセージング手段の多様化

1990年代半ばに急速な普及を見せたインターネット／イントラネットは、音声を中心とした従来のメッセージ手段に加え画像を含めたマルチメディアコミュニケーションの可能性を示唆した。しかし、メディア処理技術、ネットワークインフラの通信帯域、端末の処理能力等の限界から当時のマルチメディアコミュニケーションはテレビ会議や監視システムなど専用装置を使用するアプリケーションに限定されていた。

21世紀に入り、ネットワークインフラの高速化、情報と通信の急速な融合、デバイス（端末）の高性能・高機能化の3つのポイントの進展により、マルチメディアメッセージングの適用領域の大幅拡大が可能な環境が整いつつある。

第一のポイントであるネットワークインフラの高速化はxDSLやFTTH、無線LAN、CATV等によるインターネットのブロードバンド化、通信コストの低価格化や、さらには常時接続というネットワーク利用形態の変革をもたらした。第二のポイントである情報と通信の融合（Convergence）を実現した技術の進化の代表例はIPネットワーク上でデータと音声、画像の統合を実現するIPテレフォニー技術である。従来、別々に構築された音声とデータのネットワークはIPテレフォニーによりブロードバンドIPネットワークで統合され、データネットワークに音声を統合するVoIP（Voice over IP）から、画像を含めたMultimedia over IPへと進化を遂げつつある。

第三のポイントであるデバイスの進化すなわちCPUの高速・高性能化、DSP技術の進化により、メッセージを処理する端末の処理能力は向上した。これによって、1台の端末で音声、データだけでなく、画像を含めたマルチメディアメッセージングの処理が可能な端末が普及しつつある。図1に野村総合研究所の調査によるブロードバンド加入世帯数予測を示す¹⁾。

マルチメディアメッセージングとは

従来、音声は電話機、イメージはFAX、画像はTVというようにメッセージングのメディアとデバイスが一对一でマッピングされてきた。マルチメディアメッセージングは、メディア、時間・場所・端末の違いを意識せず、「いつでも、どこでも、誰（何）とでも」コミュニケーションを提供するブロードバンドインターネット時代のコミュニケーション環境である。身近な例として、携帯電話に内蔵されたモバイルカメラにより画像コミュニケーションが可能なJフォンの写メールやNTTドコモのFOMAの端末を想定していただくと理解しやすいと思われる。

マルチメディアメッセージングの展望

マルチメディアメッセージングと関連する言葉として、ラテン語で「同時に至る所にある、遍在する」という意味のユビキタス（ubiquitous）という言葉が浸透し始めている。IPv6でのアドレス空間の拡張によりコミュニケーションは人と人との間のみではなく、人とコンピュータ、コンピュータとコンピュータ間でのやり取りが可能となる。つまりコミュニケーションの対象となる端末は家電機器まで広がる可能性を秘めている。ブロードバンドインターネットは常時接続、IPv6、ワイアレスの更なる普及、デバイスの進化により、「いつでも、どこでも、誰（何）とでも」コミュニケーションが可能となるユビキタスコミュニケーション時代への躍進を継続すると考えられる。

当社の取り組み

当社は、「ネットワークソリューションの沖電気」という企業ビジョンのもと、ブロードバンドインターネット時代のネットワークインフラの提供と、来るべき「e社会」とネットワークインフラの橋渡しを行う3つのサービスブリッジの提供をミッションとして製品・ソリューション展開をしてきた。中でも「マルチメディアメッセージングサービスブリッジ」において、情報と通信の融合を実

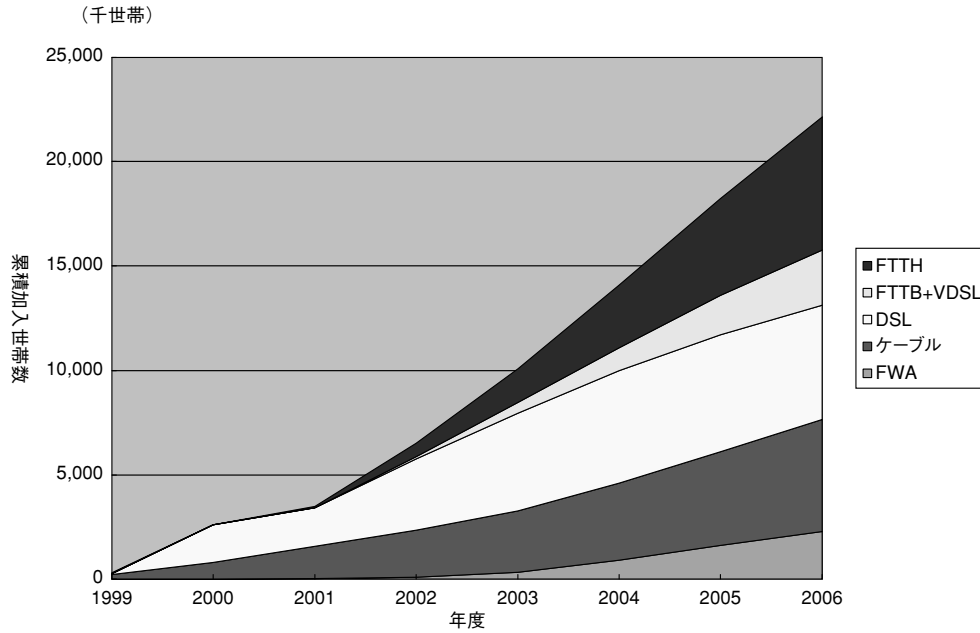


図1 ブロードバンド加入世帯数予測
(出展：IT市場ナビゲータ2006 野村総合研究所)

現する技術であるCTIやVoIPに注力してきた。今後も、その経験と実績をもとに、来るべき「ユビキタス時代」のマルチメディアメッセージングの実現に向け、ネットワークインフラから端末まで総合的なソリューションを提供していく。 ◆◆

参考文献

- 1) 野村総合研究所情報・通信コンサルティング部・二部：IT市場ナビゲータ2006，野村総合研究所広報部，2001年12月17日